

# 豊後高田市下水道事業経営戦略

公共下水道事業  
特定環境保全公共下水道事業  
農業集落排水事業  
漁業集落排水事業

平成 29 年 3 月

豊後高田市上下水道課

～ 目 次 ～

1	経営戦略の概要	
	(1) 下水道事業経営戦略策定の目的について . . . . .	1 頁
	(2) 下水道事業の概要と経営の基本方針について . . . . .	1 頁
2	下水道事業経営戦略のロードマップ . . . . .	3 頁
3	下水道事業経営戦略	
	公共下水道事業 . . . . .	5 頁
	特定環境保全公共下水道事業 . . . . .	11 頁
	農業集落排水事業 . . . . .	17 頁
	漁業集落排水事業 . . . . .	23 頁

# 1 下水道事業経営戦略の概要

## (1) 下水道事業経営戦略策定の目的について

近年では、下水道事業施設の老朽化に伴う大量の更新時期の到来や、人口減少等による料金収入の減少等によって、経営環境が厳しさを増しており、早急な経営健全化の取り組みが求められています。

このような中で、下水道事業が住民の日常生活に欠くことのできない重要なサービスとして、将来にわたっても安定的に継続することが可能となるように、中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」を策定しました。

また、下水道事業の経営戦略に関する計画概要について、「下水道事業経営戦略ロードマップ」を作成しました。

## (2) 下水道事業の概要と経営の基本方針について

### ① 公共下水道事業

平成5年3月に供用開始してから24年が経過し、水洗化率77%（類似団体84%）、施設利用率69%（類似団体49%）ともに低く、十分に施設が活用されていない状況です。

また、今後、施設の老朽化に伴う維持管理費の増大や施設更新の時期等を迎えるにあたり、現状のままでは一般会計からの繰入金が増加することが予測されます。

よって経営戦略では、下水道事業会計の一本化と複式簿記による公営企業会計の導入によって、資産と負債を明確にすること。将来的な施設更新に当たっては、下水道処理人口の減少等を勘案して、汚水処理場の規模を縮小し、周辺部等の汚水管路は更新せずに、市が事業主体となって合併処理浄化槽等を設置・運営することなどを計画しています。

なお、市が設置した合併処理浄化槽等の使用料については、公共下水道事業と同じ料金体系を考えています。

### ② 特定環境保全公共下水道事業

平成19年3月に供用開始してから10年が経過し、水洗化率56%（類似団体69%）、施設利用率61%（類似団体37%）ともに低く、十分に施設が活用されていない状況です。

よって経営戦略では、公共下水道事業と同様に公営企業会計を導入すること。真玉処理区に隣接する臼野処理区の編入等を計画しています。

### ③ 農業集落排水事業

平成16年6月に供用開始してから13年近くが経過し、水洗化率は類似団体を上回ったものの、過疎化の進行とともに処理区域内の人口が減少傾向にあり、大幅な収入の増加は見込めない状況です。

よって経営戦略では、今後、施設の老朽化に伴う維持管理費の増大や施設更新の時期等を迎えるにあたって、臼野浄化センターを更新せず、臼野処理区を特定環境保全公共下水道事業に編入して、農業集落排水事業を廃止する計画です。

#### ④ 漁業集落排水事業

平成 11 年 4 月に供用開始してから 18 年が経過し、過疎化の進行とともに処理区域内の人口は減少し続けています。

よって経営戦略では、今後の施設老朽化に伴う維持管理費の増大や施設更新の時期等を迎えるにあたり、変化に対応した持続的な污水处理システムの構築に向けて、合併処理浄化槽への切替等、地域の実情に即した污水处理方法を計画しています。

以上のような状況を踏まえ、今後の「変化に対応した持続的な污水处理システムの構築」に向けて、次のとおり経営の基本方針を定め、信頼性・効率性・透明性の向上を目指していきます。

#### ～ 下水道事業経営の基本方針 ～

- 1 污水处理方法（公共下水道、集落排水施設、個別合併処理浄化槽）の違いによって、受益者の経済的負担に差が生じないよう公平性を担保すること。
- 2 市内各地域の人口動向と既存污水处理施設の利用率を的確に反映した施設の配置及び更新を行い、経費回収率の向上を図ること。
- 3 複数の下水道事業会計を統一して公営企業会計を導入し、污水处理に係る業務の透明性を確保すること。

## 2 下水道事業経営戦略のロードマップ



